

《第 28 回全国菓子大博覧会・北海道》

市内和菓子店「喜久屋」石塚久子氏が快挙

～大型工芸菓子部門の最高賞「名誉総裁賞」を連続受賞～

令和 7 年度の第 28 回全国菓子大博覧会・北海道「あさひかわ菓子博 2025」において、市内の和菓子店「喜久屋」の石塚久子氏の作品「瑞彩（ずいさい）」が、観賞用の大型工芸菓子部門の最高賞「名誉総裁賞」を受賞された。

石塚氏は前回の 2017 年大会の同部門において、作品「錦彩（きんさい）」で最高賞「名誉総裁賞」を受賞している。大会は、コロナウイルスで、8 年振りの大会となったので、2 大会連続の受賞となった。

●全国菓子大博覧会の概要

全国菓子大博覧会の歴史は古く、1911 年（明治 44 年）に東京で開催された第 1 回帝国菓子館大品評会に遡る。約 4 年に 1 度、全国各地で開催されている国内最大の菓子の展示会。コロナウイルスの影響で、2017 年の三重「お伊勢さん菓子博」以来、開催が延期されていた。

●28 回全国菓子大博覧会・北海道「あさひかわ菓子博 2025」

- ・日 時：令和 7 年 5 月 30 日から 6 月 15 日まで
- ・場 所：北海道旭川市
- ・来場者：延べ 26 万人
- ・出展数：大型工芸菓子部門約 90 点
- ・受 賞：「名誉総裁賞」※最高賞
- ・受賞者：御菓子司「喜久屋」（野田市清水 132-1） 石塚久子氏
- ・作 品：「瑞彩（ずいさい）」

凛とした表情の美しいオナガドリを題材にした大型工芸菓子。構想は 1 年以上前から温め、約 4 か月かけて丹念に作り上げた。学生時代に菓子博で目にしたオナガドリに感銘を受け、「いつか作ってみたい」と思い続けてきた念願の作品。

最も苦労したという尾羽は最長 2.5 メートルにもおよび、その繊細な造形と迫力は圧巻。石塚さんは「華やかで品格のある作品を目指し、表情には細かいところまでこだわりました」と話す。

現在、作品は、喜久屋の店舗内で展示中。間近で見ると、その迫力と繊細さが一層際立つそうです。

問合せ＝御菓子司「喜久屋」
直通 04-7122-1604

野 田 市